教区だより

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

2016 **11**_月 第336号



到到特集

「同朋の会サポート」

~教区親鸞聖人御誕生八百五十年お待ち受け事業~

4]

ぎっぽう 雑宝



~私を歩ませた言葉~

【筆者】 因伯組 緑淨寺 坊守 はる た なお み 治田 直美 氏

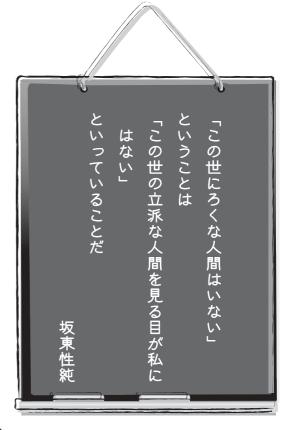




大乗仏教一釈尊観の深化ー

6 京都教区の動き

7 京都教区教化レポート(出版小委員会)



教区親鸞聖人御誕生八百五十年お待ち受け事業

特集 同朋の会サポート

教 区 親 鸞 聖 人 御 誕 生 八百五十年お待ち受け事業と して、門徒・推進員研修小委 員会が取り組んだ同朋の会サ ポートプランを特集します。

実際にサポートを受けた、山城第一組 東光寺坊守の藤澤順子さんと、近江第四組 正覺寺住職の齊藤惠さんにお話を伺いました。

なぜ、聞法の場が必要なのでしょうか。

他宗なら祈祷や除霊しなあかんとか、占いとか、そういうのにすごく戸惑うことがあるんやか、そういうのにすごく戸惑うことがあるんやそれを知ってもらわんともったいないなあってとれを知ってもらわんともったいないなあって

お聞かせください。 同朋の会サポートプランに申し込まれた経緯を【山城第一組 東光寺坊守 藤澤順子さん】

へんのですよ。「せやねん、せやねん、私もないこうかっていうのを思ったと言いそうで。法事いし、なんか、間違ったこと言いそうで。法事の後になんかちょっと話ししなあかんじゃないですか。で、しゃべっても門徒さん達に広げてどういうふうに教えをご門徒さん達に広げて

いて、絶対してもらおうと思いました。そうじゃないってことを言いたいねんけど、なぜかうまく伝わらなくて、もどかしくて…そうぜかうまく伝わらなくて、もどかしくて…そうばと思ったので、こういうサポートがあると聞けとのと思ったので、こういうサポートがあると聞いて、絶対してもらおうと思いました。

サポート期間中に印象に残ったことは?

しゃべれへんからといって、来ないようになるになんのんちゃうかなと心配もしたんですけど。くれはんねんなということ、なんか堅苦しい場ご門徒さんもこうやっていろいろしゃべって

でしたけどね。かというと来てはるしね。最初はカチンコチン

師の人は大変だったと思います。 だから、お互いに緊張していたのもあって、講タッフ対門徒さんみたいになってしまいました。座って、その反対に門徒さんが座って、寺族ス座った、最初にスタッフが衣を着けてバーンと

かせください。サポートは終わりましたが、今後の課題をお聞

意外でした。

き外でした。

をれこそ、人数減っていくやろなと思ったんですけど、そんなに減らへんかったんがびっくのはがらばるんがびっくのけど、そんなに減らへんかったんがびっくのですけど、そんなに減らへんかったんがびっく

います。 継続は力なりで、ずっと続けていきたいと思

継続が難しいとは思われませんか。

番です。あんまり思わへんかな。心が折れないことがある。

ぶっちゃけ折れることあるでしょ。

と思ってます。あるさって、それこそ、なるようにしかならんあるさって、それこそ、なるようにしかならんまぁありますよ。そんな時は、そういう時も

た経緯をお聞かせください。 【近江第四組 同朋の会サポートプランに申し込まれ 正覺寺住職 齊藤惠さん】

うなものがありませんでした。それぞれのお寺 その頃、隣の在所のお寺の代務住職をすること 三年程前に立ち消えになってしまっていました。 た時に、このプランの募集をしていたので、 で毎月というのは難しいけれども、二つのお寺 になりましたが、こちらのお寺では同朋会のよ し込みました。 のご門徒が一緒に、何かできないかと思ってい いました。でも、だんだん人が来なくなって、 以前、毎月二十八日にご命日のつどいをして 申

実際に受けてみて、どのように感じておられます

形としては、 お勤めのあと、 正信偈について

らってよかったと思い 座談が、 やはり手に余り、 名程もの参加者だと、 をもっています。三十 ッフの方に来ても 住職一人では



後の課題の一つだと思っています。 た。それらの話を展開して深めていくのが、 途切れたままになっているという声もありまし 談の話が無関係になっていて、それぞれの話が いという声を聞きました。あと、講義の話と座 てもらっているのだろうけれども、 ご門徒の反応としては、 わかりやすい話をし やはり難し 今

詳しくお聞かせくださいますか。 今後の課題ということが出ましたが、 もう少し

す。こちらが用意する筋書き以外のことが出て に対応できるか、ということが課題だと思いま くるのですから。 座談で出てきた発言に対して、どれだけ柔軟

たりが難しいなと思いました。 だけど、同朋会は立ち消えになってしまった。 興味を持てる講座を模索したこともありました。 本当に興味を持ってもらえるのは何か、そのあ 以前の同朋会では、親しみがもてるようにと わかりやすいテキストやVTRを使い、

んが、 れているのか、 頭の中であれこれ考えるのも大事かもしれませ 学させてもらうのもよいかなと思っています。 いくつかあるので、それらのお寺の同朋会を見 くのお寺で同朋会を長く続けておられるお寺が まず「続ける」ということを考えた時に、 参加されている方々がどんな思いで来ら 需要というか、そういうのを肌 近

> もっています。 で感じて参考にさせてもらいたいという思いも

ということも課題 うことの次に、そ くらいです。この はたらきかけるか の下の世代にどう 会を継続するとい たい六十~八十才 の年齢層が、だい ま来ておられる方 もう一つは、



る人がたくさんいるということだと受け止めて それも考えていきたいと思っています。 います。その人たちにどうはたらきかけるか い。でも、 宗教を必要としていないなら、それは仕方がな に居て「人が来ない」と思っていて、みんなが ろんな宗教施設がいくつもできています。 しく住宅が建っています。それに伴ってか、い 化・過疎化が進んでいますが、その周りには新 としてもっています。 この現実を見ると、宗教を必要とす お寺がある在所は、

(取材 出版小委員会)



「いのちの交感

調理の続きに取り掛かりました。「生きとったんやから当たり前やろ」と、私は学二年生の息子がポツリと一言。「血が出とる」夕飯の支度中に魚を捌いていたところ、小

数日後、雑宝の原稿を依頼され、私を歩ませてくれた言葉を思い浮かべた時、いのちをいたでいる自分に気付かされました。いのちに心を寄り添わせていたのは、息子の方でした。私が初めていのちを意識したのも、小学生の時です。小学六年生の時の担任が、学級開きで鰻の話をしてくれました。

願されたため逃がした。しかし、頭から血を流た。だが、我が子から可哀想だからやめてと懇鰻を自ら捌いて食べようと、頭に釘を打ち付け鰻をしばらく生かしておいた。その捕らえた鰻をしばらく生かしておいた。その

う内容でした。していたため助からないだろうと思った、とい

表えた、最も古い記憶です。 私たちは、生きるために他のいのちについて が、「いのちの交感」でした。いのちについて さいました。その後配布された学級通信の題名 が、「いのちの交感」でした。いのちに支えられ いていること、数えきれないいのちに支えられ

また、その先生は、灰谷健次郎の『太陽の子』を一年にわたり少しずつ読み聞かせてくれました。半年ほど前、古本屋でこの本を見かけ、懐かしく、手に取り読み返してみました。当時は、かはく、手に取り読み返してみました。当時は、の物語としか受け止められませんでしたが、主のながる多くの死を思う姿も描かれていました。一年かけていのちについて語のでは、気候の子』を一年かけていのちについて語ので、当時は、大公の少女が生きる意味を追求し、自分の生につながる多くの死を思う姿も描かれていました。

とが出来ました。 た。 かったと、 せていただいているご縁に、 に気付かされました。二十年ぶりの気付きでし 生かされているからこそ尊い、「自分のいのち」 頭に浮かび、改めて、 きる」と聞いた時、「いのちの交感」のお話が ての彼岸会のご法話で、「他のいのちに出遇っ ぬ生活に戸惑うばかりで、 族で入寺しました。 初めていのちと向き合ってから二十年後、 お寺に住まわせていただき、法話を聞かさ 初めて自分のいのちの尊さを知ることがで 常に思っていました。入寺して初め 当初、 いのちのつながりの中で 以前の生活の方がよ 慣れぬ土地での慣 初めて感謝するこ 家

これからも一歩ずつ歩んでいきたいと思います。とは程遠い食事の時間を過ごす私たちを立ち止とは程遠い食事の時間を過ごす私たちを立ち止とは程遠い食事の時間を過ごす私たちを立ち止まらせてくれたのは、記憶の中の言葉たちでしまらせてくれたのは、記憶の中の言葉たちでした。同じ言葉に何度も出遇い、確かめながら、た。同じ言葉に何度も出遇い、確かめながら、た。同じ言葉に何度も出遇い、確かめながら、た。同じ言葉に何度も出遇い、確かめながら、



という点では非常に重要な問題ですから、 と始めましたがそうした表現になるの 容を分かりやすくするために「昔、 の要点をまとめておきます。 本シリーズのテー 後のことである、と言いました。このことは 前 口 触 れた 「鹿王本 マである 生物 物語の最後に、 「釈尊観の深化」 菩薩は は少 内

徳の 誰にも分かりやすい物語の 力物語では、 ジャータカ物語は、 前 拠りどころを因果の道理に基づきながら、 回紹介したようなごく初期のジャータ それぞれの物語 ブッダ釈尊の智慧と功 形で説いたもので 0 主人公 (前

0

から、 場合、 故、 であると言えます。 を完成したということです。 とが決まっている人がさとりを求めてさとり 来のさとりの完成を見れば、 とはありえません。 成したかどうかは分からない、などというこ ら見て「さとりを求める人」と称するのです のです。 少し後の時代になると、このジャータカの主 るブッダ釈尊にあったと言えます。 菩薩は」と説かれてはいませんでした。 あった」などと説かれており、 人公をおしなべて「菩薩」と呼ぶようになる 中の 人ですから、ここでは さとりを求める人」という意味です。この ットヴァ」の発音を漢字に当てたもので、 鶉本生」など) の物語ならば 話題の中心は常に功徳と智慧の存在であ その人はさとりを求めて苦行したが完 さとりを完成したブッダ釈尊を過去か 「菩薩」 菩薩とは、古代インド語の「ボディー は、 は、 「鹿王」、 常にかつてのブッダ釈尊 過去の菩薩の時点から未 「その時世尊は鹿王で 菩薩」 そのほ そしてこの物語 さとりを得るこ まだ「その時 カン は固有名詞 ところが 「象本生 それ

れてい 想の中にはない仏教特有の言葉であると言わ この 、ます。 「菩薩」という言葉は、 そして、 「菩薩」という言葉が 他の イ ンド思

> す。 物語 も古い経典は、 ダー という書き出しで始まります。このようにし たのです。シビ王ジャータカ物語を伝える最 タカ物語などはこうして歴史上に登場してき 良く知っているシビ王ジャータカ物語や、 に大きく発展していったようです。私たちが 使われるようになるとジャータカ物 菩薩という概念が登場するとジャータカ は ナ太子ジャータカ物語、 極めて豊かな内容を持つようになりま 一昔、 菩薩は大国王であった_ 投身餓虎ジャー 語 は ス 気

あれば、 また、 因位 登場するのです。 朝 者を結ぶものが 語と大乗経典は深い関係にあるのですが り入れられた物語も多くあり、 のと様々です。またこの中には大乗経典に取 があります。 られるものと漢訳によって伝えられるものと の経典として伝えられるものも存在します。 の物語が一つの経典として伝えられるものも 今日、 晚 時 \mathcal{O} 古代インド語のパーリ語によって伝え お勤 このようなジャータカ物語は、 多くの物語を編集してひとまとまり \mathcal{O} 法蔵菩薩も 8 内容も重複するもの、 Ó 『正信偈』 「菩薩」という概念なのです。 こうした流れ にある「法蔵菩薩 ジャータカ物 しないも えの先に 両 0

京都教区の動き

准堂衆会公開講座

開講座を開催。 のルーツをお話いただいた。 というテーマで講義をいただき、 (本山内事部)をお迎えし「大谷派の装束 九 月五 日 (月) 教区会館大講堂に於いて公 参加者三十名。 山口昭彦先生 現在の装束

次回、 十六時~十八時で開催予定。 同テーマの実践編を十二月十二日 (教区准堂衆会会員 仁科 高遠



教区坊守会役員 泊研修会

教区) 題を中心にお話しいただいた。参加者から坊 に関わる制度の変遷、 ヤルホテル京都において、 の女性問題」とし、宗門と女性の歴史、 九月八日 を講師に迎え開催した。講題は (木) ~九日 坊守問題の現在と課 (金)、 尾畑潤子氏 リーガロイ 「真宗 (三重

> 坊守袈裟が坊守章として現在に至る経緯を守章を着用するかどうかの素直な質問もあり、 お話しいただいた。

> > 懇親会ともに世代を超えた交流ができ、

充実

したものとなりました。

(教区仏教青年会常任委員

磯野

惠嗣

各々がお考えいただければと思う。 歳で受式できるとなったのは平成四年であ また、女子の得度年齢が男子と同じく九 二十四年前である。 遥か昔の話ではない

、教区坊守会会長 仲野 緑

出 崎 別院清掃奉仕&BBQ

が岡崎 青主催の清掃奉仕 催されました。 毎年恒例の 九月十 別 院にて開 日 教区仏 (日)、



だきました。 の落ち葉掃除、

別院内で懇親会として屋外BBQを行いまし 取りなどを約三時間行 いました。 終了後は、

う元気で明るい声をいただきました。清掃、 も絶対来たい!また、 参加した小学生の子どもたちからは みんなで来る!」とい

大津別院清掃奉仕

や植木の剪定など、普段できない所も含め、有志の方々にも来ていただき、境内の草刈り 縁のある門徒さん・業者さんに加え、 大掃除を行いました。 に参加することができました。 んだ二十九日(木)に、 台風が次々と来た九月の、 大津別院の清掃奉仕 ちょうど雨がや 仏青仲間やご 境内の草刈り

くだからこその は、特に江州(滋賀県)の人々には本山 私たちの大先輩が支えてこられたこの別院 近

おられたのかな るぞという思い 明日は本山へ参 も聞いています。 参りになったと と思いながら なられた方々が でこの畳に横に 価値があり、 お



(教区仏教青年会常任委員 比叡谷 清掃でした。

戸都教区教化レポート

出版小委員会】

文言が記されてあります。向けて」と題した文面があります。そこには次のような「教区だより」の編集にかかわる資料の中に「再刊に

【目的と期待効果】

聞法生活とせしめる聞法の契機となる問いかけを発信し、生活そのものを

【機関誌発行がないと困ること】

- 教区としての問題点が共有化されない
- 教区の動きが伝わらない
- 教区として関心を寄せている宗門の動きが伝わらない

在は十一名の編集委員で活動しています。年に一度、企このような方針のもと「教区だより」は再刊され、現課題の設定と、各寺の活動紹介などが明記されています。また、教区の課題として、教区の基本方針を意識した

るのではなく、同時に委員間の議論(座談)を通して、ています。月に一度の編集会議の場は編集作業だけをす誌面構成や執筆者選定などを話し合い、誌面展開を図っ画検討会議を開催し、各コーナーの企画案やテーマ設定、

(出版小委員会主査 藤川秀行)

それが聞法の場となることが願われています。

-《敬弔》-

を表します。 ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意

二〇一六年六月十八日 八十九歲近江第七組 德應寺前住職 浅野 昭

敬称略〕

《真宗本廟御法要のご案内》

本年十一月二十日・二十一日は、このた本年十一月二十日・二十一日は、このたをされます。みなさまの参拝を心よりお待修されます。みなさまの参拝を心よりお待修されます。みなさまの参拝を心よりお待りである。

●近畿連区参拝受付テント●近畿連区参拝受付テント

(御影堂正面北側

お立ち寄りください。
※受付は個人、団体参拝のいずれも近畿※受付は個人、団体参拝のいずれも近畿【受付対象】京都教区内参拝者

収骨・読経のお取扱いについて》《真宗本廟御正忌報恩講期間中の

めいたしますので、ご留意ください。
「特接待所にてお預かりし、二十九日にお収申経のみお取扱いがあります)。
申経のお取扱いがあります)。

《常磐会館報恩講のご案内》

ますようご案内申し上げます。
ご法友お誘いあわせの上、ご参詣ください
ます。真宗本廟(本山)報恩講に引き続き、

●講 師 一樂 眞氏(大谷大学教授)●会 場 京都教区会館 二階大講堂●期 日 十一月二十一日(月)

四時三十分~ 勤行 四時~ 受付 四時~ 受付 受付 受付

七時三十分~ お斎 大時三十分~ お斎

■冥加金 二○○○円

●申込みは不要です。
●申込み 十一月十一日(金)までに
京都教務所へお申込みください。

■京都教区教化テーマ■

多いのちがあまたと生きている 樹にはかいのちの声感はなかいのちのあくかり

◆教区事業予定

1 1 月 1 4 日 (月) 13:30 ~ 17:00 出版小委員会 会場◇教区会館 3 F 会議室 1 1 月 1 5 日 (火) 13:00 ~ 15:00 門徒・推進員研修小委員会 会場◇教区会館 3 F 会議室 1 1 月 2 1 日 (月) 16:30 ~ 19:30 常磐会館報恩講 会場◇教区会館 2 F 大講堂

◆地区•団体事業予定

11月	2 目	(水)	$18:00 \sim 20:00$	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
11月	8日	(火)	$16:00 \sim 18:00$	准堂衆会	会場◇教区会館3F	研修室
11月	9 日	(水)	$9:00 \sim 16:00$	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F	大講堂
			$15:30 \sim 18:00$	大谷保育協会京都支部	会場◇教区会館3F	研修室
11月1	1 目	(金)	$13:00 \sim 17:00$	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
11月1	6 目	(水)	$13:00 \sim 15:00$	女性声明会	会場◇教区会館 3 F	研修室
			$18:00 \sim 20:00$	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
11月2	25目	(金)	$13:00 \sim 17:00$	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
			$14:00 \sim 17:00$	靖国問題学習会	会場◇教区会館3F	会議室
11月3	30日	(水)	$15:00 \sim 17:30$	教区ハンセン懇研修会	会場◇教区会館2F	大講堂

「教区だより」第336号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2016 (平成28) 年11月1日

発行人 錦 秀見(真宗大谷派京都教務所長)

発行所 真宗大谷派京都教務所

T 600 **-** 8164

京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel: 075 (351) 5260 Fax: 075 (351) 5256

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寳印刷工業所

the editor's note 編集複記

10月21日、鳥取県中部を震源として、震度6弱の地震が起こりました。被災された方々には謹んでお見舞い申し上げます▼広い範囲で揺れを観測した今回の地震。今度はどこかとテレビの画面を注視する。忘れた頃にやってくるはずの災害が頻発する時代。緊急地震速報を伝える携帯電話のけたたましい警告音が、現代という時代を象徴する音に聞こえます。

(編集委員 藤川秀行)